

## 受信日記

田淵哲夫 (JSWC-191)

### アラビア語局を追って (1)

アラビア音楽の旋律はどこか我国の雅楽旋法に似たところがあり、ちょっと心を引かれるものがあります。私は DX Hunting に疲れた時など、よくこのアラビア音楽に耳をかたむけます。他人様には蓼食う虫もと思えませんが、本人は至極満悦、アラビアンナイトのあの奇怪な物語でも思出しながらいつしか夢の国に行ってしまうから、これだけなら天下泰平です。

ところがさて今聞いているのは果してどこの局だろうかと、柄にもない量見を起すからいけません。私にとってはアラビア語を始めアフリカ、アジアの言葉は西洋の言葉以上にやっかいで、一体どこの言葉かの見当すらつきません。局の確認は先ず絶対に駄目なのです。と云うことはわかっているのに、矢張りそれがわからなければ腹の虫がおさまりません。まことに世話の焼ける虫を育てたものです。

× × ×

今 6230, 7060, 9800, 15090Kc で 0000~0400 に放送している局に初めて出会ったのは今年の春頃です。(DX guide 57 年 5 月号 4 頁)0500 に終了したのは 5 月 2 日だけ。無理に May day と結びつけてもみました。然しどうしてもこうしても結局駄目、他力本願ニュース待ちになりました。

大体アラビア語等の局に関するニュースは海外の DX プロでも余り早くはなく、この局に関しては、やっと 10 月に SBC の DX プロ<sup>1</sup>がジョーダン (Jordan) だとのニュースを出しました。続いて 11 月にも矢張りジョーダンと云っています。(DX guide 57 年 12 月号 10 頁)

まさか SBC の DX プロがジョーダンを飛ばす筈はありませんから Jordan に間違いありません。私個人としては色々な疑問は未解決のままです。SBC に出る前、或は出てから、こんな事を考えています。

この Jordan は 6045Kc で今も “Huna el Quds” とアナウンスする局とは全然別プロです。一度も同一プロはチェックしていません。多分 Jordan でも別の局でしょう。同一局としても別プロを出しているのです。新局は何と局名を云うのかどうしても発音がわからないのです。例えば “ウナ、コーシントン” とでも聞えます。全く例えばで、ワシントンでもよいのです。そんな三音節位の響きです。それに似かよった地名の心当たりもありません。アンマンでもない様です。

6045Kc は非常に弱く入感しない日が多いでしょう。新局は強くいつでも受信出来ます。昼間でも入るのです。(DX guide 58 年 2 月号 5 頁<sup>2</sup>) アナウンスの口調の特色がはっきりしていますから、どこに出てもすぐそれだとわかります。

6045Kc は非常に音のきれいな局です。歪も少く、高低音もよくのび、強かったらきっと FB なアラビア音楽が楽しめます。が新局の音は決して上等ではありません。同一国内の放送局は大体似た音をしているものですがね。Australia ならメルボルンもパースもシドニーも音の区別は出来ません。

新局のアナは男一人女一人位、少い様です。地下局などは大低話手は少いです。朝強力なのでどなたも御存知の反エジプト放送 (11740, 15135, 17787Kc 等) など、“どうぞ水を一杯やって下さい” とすすめなくなる程せき込んだ口調のアナウンサーの孤軍奮闘です。

故意か偶然か 7060, 9800 の二本は Cairo の 10Kc 上に出ています。

<sup>1</sup> 当時、スイス放送が毎月第 1 金曜日に放送していた DX プログラム

<sup>2</sup> 15090A Arabic-speaking station, said to be Jordan(?), has now also appeared here and is heard at 1500(s/on)-1900(s/off) in parallel with 6230V, 7060A & 9800A Kc. Also audible from around 0600 till s/off at 0700.

こんなに長い期間何本もの周波数で強く出ているのに何故 SBC 以外のニュース源はだまっているのでしょうか。W.R.H. Bulletin 等にも出そうなものですが、SBC でも二回共 6 と 7MC の二本の短時間のチェック結果だけで、其他の周波数、正確な時間等のニュースは未だどこからも聞けません。

全く冗談でなく、果して何と局名を云っているのか、どなたかテープにでも取ってよく確かめて DX guide 誌で教えて下さいませんか。1600 終了近く毎日でも 15090Kc で受信出来ます。(3月号)

## アラビア語局を迫って (其の二)

琴の六段に尺八、さては三味線を放送したのは昨年 8 月 29 日の午前 5 時。と云ってもこれは日本国内の話ではなく 6140Kc のアラビア語局です。この局に始めてお耳にかかったのは、ですからそれより大分前なのです。軽音楽が多いのも注意をひきました。弱いのですが、7180Kc も確かに同じものだとわかる位ですから、かすかという程の弱い電波ではなかったのです。(DX-Guide 57 年 8 月 3 頁) 大体アラビア語局でも軽音楽等洋楽をふんだんに出すのは中近東、アフリカのアラビア語が母語の Home service に多く、欧州局等の中東向アラビア語では却ってアラビア音楽だけというのが多いようです。

結局この局も予想通りお手上になりました。ニュースは案外に早く、それでもやっと 11 月 3 日発行の NSB DX ニュースでした。出典は R. Sweden の DX プレチンです。(DX Guide 57 年 12 月 7 頁) それで Libyan B'casting Service の新しいアラビア語の二局 Tripori と Benghazi と判明した次第です。

× × ×

わかってしまえば弱いアラビア語なんぞにもう用はありません。御無沙汰をしました。ところが或夜 7180Kc の Benghazi が恐ろしく強力です。これならアラビア音楽が楽しめそうです。ダイヤルが止りました。そのうちお話の中で盛んに“バクダード”、“バクダード”と云っていました。何かバクダードの事を云っているらしいというのはその時の想像です。

0500:ピピ、ピピ、ピピ 2 点 3 回の 6 点時報です。これは R. Baghdad の時報そっくりですが、Benghazi と思い込んでいたのですから、さては Libya の時報もそれと同じかと新発見のつもりです。そして又妙なるアラビア音楽はつきました。

0600:今度は時計で 12 時です。勿論夜中の 12 時。

おや??? Libya なら GMT と 1 時間しか違わず 10 時の筈。さては? 今度は注意しました。もうアラビアンナイトの夢も吹飛びました。“ウナ、バクダード”。

Benghazi だとばかり思って聞いていたのは実は Baghdad、いつの間にかこの周波数には 10KW の Baghdad が出ているのです。(DX Guide 57 年 12 月 8 頁)

× × ×

それにしても 0500 の 6 点で Baghdad?? と考えてみなくてはならぬのです。反省してみますと Libya はそれまで時報は出ず、0 分 30 分にはスエーデン狂詩曲が出るだけだったのです。

全く心ここにあらざれば見当ちがいもひどすぎる話です。まさか皆さんはこんな失敗はなさらぬでしょうが私など毎度こんな愚の繰返しです。それでも 6188Kc は何とか間違いなくすみしました。こちらは 0300 までは別プロです。多分 Kurdish でしょう。が、この 6188Kc は 5 月になってから行方不明になりました。3297Kc へも出ていないようです。

× × ×

時報で失敗しましたが、これは時報の研究不十分の為です。時報はよく分析すると、IS 同様私達に物を云ってくれるのですが、例へば R. Norway, Lisbon 等は時報で先づピタリ。中国語で中共<sup>3</sup>と台湾の区別も中共は、最後が高い 6 点時報で区別出来ましよう。然し BBC の Big Ben はこれを真似たのが多く、Westminster Melody と云われるあの Music Chime の旋律をならすのは無数です。中には Cairo の如く、15 分には a quarter strike, 30 分には half strike, 45 分には 3 quarter strike, そして 0 分には full strike と全く Big Ben そっくりのままです。

何ですって? Big Ben は音色でわかる筈ですって? いやいや私なんぞがそれまでになるのは前途遠慮です。(5月号)

<sup>3</sup> 中華人民共和国(中国)のこと。当時「共産党が支配する中国」といういみで「中共」という言葉が使われた。

## アラビア語局を追って (3)

アラビア語と言っても、この局のアラビア語は 0300JST(以下すべて JST) に僅かに 15 分それも局名がわかってからジャミングの中をほじくり出したアラビア語と英語。初めはチンブンカンプン局としてでした。

夜中の 9607Kc の常連はこれまで、R. Free Europe<sup>4</sup>, R. Athene あたりでした。そこに 4 月の初め頃変な局が現れました。0100 に 9600kc の VOA ロシア語へのジャミングが消えると大抵出て来るのです。言葉の見当は全然つきません。が音楽は確かにインド洋に面した地域のもの。アフリカだとしたら東アフリカ、北アフリカ、例えばソマリ地方で聞く音楽です。しかし始めはアジアらしいと思いました。

時折注意してみると、0130 と 0230 にニュース(?) があり、盛んに“エチオピア”を連発するのです。或いはソマリ語其他でエチオピア? とも思えるのですか、それなら 9620Kc の筈。昨年は確実に 9620Kc に出ていたのです。(SW-DX Guide 57 年 5 月号 6 頁参照)

丁度その頃は 9607Kc のギリシヤ R. Athens は高く或いは低く出ていたのですか、この局を確かめてみようとする頃から R. Athens が大体 9605Kc に固定してしまいました。この局へはイギリスが出している唯一つのジャミングがかかっています。0100-0200, 0315-0345 です。こうなるともう駄目です。確認は一応あきらめました。(Guide 58 年 5 月号参照<sup>5</sup>)

ところが或る時、フト 6188Kc の R. Baghdad が行方不明になっていることを思い出しました。そしたら 6184Kc のエチオピア Addis Abeba は入る筈です。

6184Kc 確かに出ています。そして 9607Kc と完全に同一プロ。ジャミングを我慢して聞くと 0315 に短い英語ニュース、あとは音楽ばかり。0345 にジャミングが終ると音楽がはっきり浮出して来ます。0400 にアナウンス“The Voice of Ethiopia”，そして周波数は 9620Kc とのたまうのですから恐れ入った V でありました。

× × ×

数日後このニュースは R. Australia の DX プロがスクープしました。残念でした。何も Australia とはり合う大それた考えはありませんが、もうちょいとジャミングを我慢して、この英語プロがつかまえられたら。或いは国内ニュースか R. Australia より早かったかもわかりませんが。いや矢張り駄目だったでしょう。

R. Australia のこのレポーターは多分キプロスからだった様です。いつも a DX-Correspondent at Cyprus とだけで名前は出ませんか。日本短波放送から送っていただいている短波手帳の 7 月号に Cyprus の Pau Kary という人のレポートが豪華な写真入りで紹介されていました。肩書きに R. Australia, DDW, WRH<sup>6</sup> の DX モニターとあります。或いはこの人ではないでしょうか。R. Australia でいつもアフリカ、中東局のヒットを飛ばしています。

(註) 御説の通り DX-Correspondent と称しているのは Paul Kary その人です。英国系の人でしょうがアラビア語がわかるのか、屢々の好ヒットは近頃国際的に最もアクティブな DX-er の一人でしょう。元来中近東にはいわゆる SWL 乃至 DX-er は極めて少く、その割に国際的にデビューする人は実力も豊富の様です。ロケーションのせいのみではないのでしょうか。1952 年に出現し半年の間世界中を天手古舞させた例の Kuwait の局にしても(当時約 5000Kc) 確認したのはイスラエルの DX-er でした。これは歴史的なスクープであったと今でも思える程です。私自身がじりついたので余計記憶に鮮明なのかもしれませんが、同年の 10 月には英国の Jack Fains が DX-Editor をしていた雑誌で懸賞を出した程でした。私の経験に照らしても長期間 DX-er をうならせるタチの?局はアジア・アフリカが殆んどです。地下局がヒョコヒョコ現るのもそうですし、近頃は例の中近東状況に依りいくつかアラビア語の地下局が出現していると、R. Sweden の DX プロが伝えています。以上蛇足乍ら御参考迄に。(KW 生<sup>7</sup>) (8 月号)

<sup>4</sup> 当時のソ連をはじめ東欧諸国に向けて放送された、宣伝放送局。

<sup>5</sup> 9607A R.Addis Abeba, Ethiopia(presumed), sometimes audible due to QRM from Athens on 9607Vkc.(T.Tabuchi)

<sup>6</sup> “World Radio Handbook”, 現在の“World Radio TV Handbook”の前身。当時はデンマークで発行されていた。

<sup>7</sup> 『日本短波クラブ会報』の編集長・和田謙郎(JSWC-003)氏

## 生兵法は大怪我のもと

“7260A, Lourenco Marques, hrd in English from 1430A. S/off at 1800.”と出ているのは SWDX Guide の 1955 年 1 月号ですから実際に受信したのは 1954 年、もう時効になりそうな昔々の物語ですが、当人にとっては今もってなげきも生々しい大きい過失誤信罪でありました。

このレポはちょいとおかしいですね。そうです。1800(GMT)S/off は少し変です。ところが、このレポの原物たるやこんな生やさしいものではありません。...with God Save the Queen. となっているのです。英国歌で終了する葡領東阿の Lourenco Marques。Gyo! です。

これを見た Kilo Watt-Editor はきっと JSWC-191 の精神状態をうたがったでしょう。しかし、1800GMT もおかしいとは思いながらも、好意的に葡国歌の間違いだらうと解して英国歌はカット、お蔭で恥を国外にまでさらさずすむ様な、なんとか当り前の様なかつこうに直していただいているのです。

ではどうして Lourenco Marques は英国歌で終了したのでしょうか。

1430GMT 頃から受信したのは確に 7260kc で英語の Lourenco Marques なのです。連続受信していたらもうすぐ、例の難物の局名アナウンスをしながら終了した筈です。然し大して珍らしくもない局ですから、ダイヤルはすぐ他のバンドに行きました。大分たってからでしょう。又 7Mc に帰ると矢張り英語の Lourenco Marques が出ていました。そして 1800 に終る。英国歌で。ああ、1800 に終了するのか。それがレポとなったのです。英国歌はどうした!

実は 15 分毎に掘られて行く、大きなおとし穴にストン! ストン! と落され。全く目がくらみ、正気の沙汰ではなくなってしまうらしいのです。

15 分毎のおとし穴は、ピアノで



のインターバル。WRH の Mozambique のところを開いてみて下さい。前半は葡語、後半がこの英語 Net Work I.S., 全く同一のもので出るので。難しい局名を聴くまでもない。英語の Lourenco Marques だと独断してしまいました。

× × ×

が勿論これは Lourenco Marques ではありませんでした。英国歌で終了するのですからね。

実は周波数も間違っているのです。Lourenco Marques と思ってバンドセットをしているのですから 7260kc で正しくは 7240kc の Nairobi だったのです。

× × ×

Nairobi が出ていることは承知していました。未確認ながら 1700 終了をチェックしています。DX-guide 9, 10 月号 5 頁 “7240A, Unidentified stn hrd S/off at 1700 with God Save the Queen”. 曜日によって終了時間は違っていたのです。

× × ×

インターバルシグナルは不明局確認の有力な極手の一つです。正宗の銘刀にも必適しましょう。がそれも使い様、使い次第。こんな下手に持たせるととんでもない大怪我をします。IS も仲々似たのがあります。確認の絶対の極手は矢張りアナウンス以外にはないものです。

誤信の名人にとっても、これは余りにも雄大な誤信でした。この雑文の標題も誤信日記とした方がよさそうです。(10月号)

## 目は耳ほどに物をきき

1957 年初夏の或る夜:0100 頃 6060KC に変てこな局が現れていました。音楽だけならインドと云いたいです。大分後になってから 0045 に S/on することがわかりましたが、その開始音楽も全く AIR 風です。それで、0300-0315 に BBC の英語ニュース、0330 God Save the Queen で S/off することを発見するまでは何の興味も持たず聞き捨てしていました。然し BBC ニュースと英国歌とあっては聞き捨てもなりません。

BBC ニュースの前後に、英語の局名が出る筈、そしたら簡単だろうと改めて聞きました。駄目です。何度立向っても空振りです。S も小さいし、大体 0200 をすぎるとイタリーの Caltanissetta が強くなってしまい、どうしてもわかりません。果して局名を云っているのか否かそれさえわからないのです。然し矢張りこの時間だけをねらいました。この英語以外はどうもペルシャ語らしいのです。とにかくアジアではあると迷診断。

相変わらずわかりません。ペルシャ語、そしたらこの附近の英系局で近いのは Bahrain。然し Bahrain はアラビア語で中波局です。だが新しく短波でペルシャ語開始、ということもあり得る事です。

一度 D さんに意見を求めました。いつか受信せずして Radio AEF をズバリ当てたと紹介した事のある驚くべき Dxr です。D さんはアジア局に関してもその人ありと知られた達人、AIR の大ファンでインド音楽を聞かない日は飯がまずいと言います。そしてその D さんからは、“アホじゃなかるか!” と一発。ガクンです。勿論彼氏は受信はしないのです。そしてこの否定は矢張り正しかったのですから、益々もって恐ろしきガンリキです。

遂に降参。(SW DXguide 57 年 8 月号 3 頁)

×        ×        ×

が、矢張り気になります。今度はアジアという独断的制限を撤廃してみました。アジアでなければアフリカ。

WRH を見ますと、あります。あります。てっきりこれです。周波数は違いますが、3315Kc で 0045-0330, Hindustani 語の Home Service の Nairobi! 時間もピッタリです。周波数が変わったのでしょうか。ニュースは早く、このレポを出した同じ DX guide の P8 に WRH のニュースが出ていました。

然しあくまで推定、それでも局名は聞けず、真夏になって、アフリカの小局群は一斉にこのバンドから消え失せてしまいました。

×        ×        ×

それから一年。

1958 年、春。アフリカ Season 到来と共にこの局は又現れて来ました。今度は 0045 の開始が可成り強いです。二三回目だったでしょう。開始音楽につづいて He Nairobi ye!

アナウンスは Hindi 語そっくりですが、続けて聞くと違います。これが Hindustani というのでしょうか。(DX guide 58 年 7 月号 2 頁<sup>8</sup>)

×        ×        ×

Hindustani というのは極く常識的に Hindustan の方言だろうと考えていたのですが、何故それがアフリカ局の Home Service に使われるのでしょうか。

ものの本に依りますと Hindi が Hindu 教の文章言葉であるに対し、Hindustani は話し言葉として、Hindu 教徒、回教徒のいずれにも通ずるのだそうです。そして又、アラビア語。ペルシャ語の強い影響を受けていると言われます。ペルシャ語とききちがえたのはこの為だったろうと自己弁解をしています。このプロはインドからの移住民向でしょう。又迷診断が許されるなら、アラビア、ペルシャ、ヒンズー、ウルズー語族なら、Hindustani は共通してわかるのでしょうか。

×        ×        ×

一年がかりとはまことにスローモー確認記でした。そして前年ねばった BBC ニュースの前後には英語の局名は勿論、Hindustani 語のそれも云わないのです。

云わないアナウンスを、夜な夜な聞こうなんて全く“アホじゃなかるか!”

始めから WRH をさがした方が早かったのかもわかりません。

(12 月号)

(『日本短波クラブ会誌国内版』1958 年 3 月号～12 月号連載。脚注は PDF 化に当て付けた。)

<sup>8</sup> 6060 Nairobi, Kenya, audible from 1545(s/on) in Hindustani(?). Relays BBC News in English at 1800-1810. Closes down at 1900 with “God Save the Queen”. (On the air 1545-1830 last year). Heard on 6050kc on June 19 only. (Tabuchi)